

担当 エリア	D	居宅 2	名称	No 12	姥部屋・箱階段
エリア 全体の 概要や 特徴等	第14代笹川只一の代まで使われていた。一階が姥部屋で、二階が子供部屋。				
細部の 解説			第14代・笹川只一の代までは、当主の子供には身の回りの世話をする姥がついていたそうです。		
			その姥が寝起きしていたところがこの3畳の姥部屋です。 (自分の部屋と比べたら、とても狭いですよね。)		
			そして、この姥部屋から子供部屋に行く階段がこの箱階段です。明治の中頃まで下階が姥の部屋、屋根裏を子供部屋としたため、その行き来に使われていました。 この箱階段は、タンスのような収納の機能を併せ持っています。 主に「姥の道具を入れていたのでは」と言われています。色々なところがあります。		
			では、最後に子供部屋の説明をします。 ここは、子供が寝起きしていた場所で、寝ているときに落ちないように、階段に木のふたもついています。		